

当院の病院感染防止対策の取り組みについて

病院感染対策は、安全で質の高い診療を行うために非常に重要です。主な活動は、問題を早期に認識し、適切な感染対策を実施するための実態把握（サーベイランス）と、適切な感染対策の指導を行うコンサルテーションです。院内感染対策の計画では、委員会を設け、感染状況を把握し、それに基づいて防止策を決定しています。

院内感染対策室では、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員の多職種からなる感染対策チーム（ICT）と抗菌薬適正使用支援チーム（AST）が、病棟ラウンドやカンファレンスを通じて具体的な事例に対応しています。具体的な感染防止対策を企画し、病院全体の感染リスクを評価して早期に課題を見つけ、アウトブレイクを未然に防ぎます。感染が多発した場合は、感染経路を特定し拡大を防ぎます。全職員を対象に感染対策と、抗菌薬の適正使用に関する講習会を実施しています。

また、院内外の抗菌薬使用状況を把握し、抗菌薬の適正使用を推進する活動も行っています。届出対象の抗菌薬使用症例や長期使用症例、血液培養陽性症例などをモニタリングし、カンファレンスを通じて具体的なフィードバックを行っています。

加えて、当施設は地域中核病院として近隣の医療施設と連携し、感染対策に関する地域ネットワークを構築しています。院内感染対策室では、随時相談に応じる体制を整えています。



東海大学医学部付属病院

院内感染対策室（内線：3146）